

令和4年度

愛南町病院事業会計決算審査意見書

愛南町監査委員

愛監査発第 17 号  
令和 5 年 8 月 18 日

愛南町長 清 水 雅 文 様

愛南町監査委員 西 村 信 男

同 原 田 達 也

令和 4 年度愛南町病院事業会計  
決算審査意見書の提出について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により、審査に付された令和 4 年度愛南町病院事業会計決算書、その他政令で定められた書類・証書類の審査を終了したので、別紙のとおり意見書を提出します。

# 令和4年度愛南町病院事業会計決算審査意見書

## 1 実施日

令和5年6月28日（水）

## 2 審査の対象

令和4年度愛南町病院事業会計決算（令和4年4月1日～令和5年3月31日）  
決算報告書、その他附属書類及び証書類

## 3 審査の方法

審査に付された決算報告書及び附属書類が、地方公営企業法の規定に従って作成され、かつ、その経営及び財政状態の表示並びにその運営が適正に行われているかどうかについて、関係諸帳簿、証拠書類等と照合しながら検証するとともに、審査に当たっては必要に応じ経営内容及び事務の処理状況等についても関係職員の説明を聴取して実施した。

## 4 審査の結果

審査に付された決算報告書及び附属書類は、地方公営企業法その他関係法令の規定に従って作成されており、事業の経営成績及び財政状態等を適正に表示されているものと認めた。

## 5 審査の概要

審査の概要は次のとおりである。

## (1) 予算の執行状況

本年度の病院事業の収益的収入の予算額は、713,000,000 円、収益決算額は、657,041,787 円、予算に対する収入率は 92.2%である。収益的支出の予算額は、713,000,000 円、費用の決算額は 664,906,557 円、執行率は 93.3%である。

資本的収入の予算額は 3,619,000 円、決算額は 3,619,000 円、予算に対する収入率は 100.0%である。資本的支出の予算額は 29,319,000 円、この決算額は 27,912,423 円、執行率は 95.2%となっている。資本的収入額が資本的支出額に不足する額 24,293,423 円については、過年度分損益勘定留保資金 23,045,413 円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 1,248,010 円で補てんしている。

## (2) 業務の状況(年間患者数)

(単位：%、人)

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度
病床利用率		77.9	82.5	70.8	△ 11.7
入院患者数	一本松	17,058	18,066	15,508	△ 2,558

入院患者数は延べ 2,558 人 (14.2%) 減少し病床利用率は 70.8%となった。

(単位：%、人)

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度
外来患者数	一本松	8,057	10,652	8,633	△ 2,019
	内海	4,535	4,790	4,187	△ 603
	福浦	629	571	618	47
	計	13,221	16,013	13,438	△ 2,575

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度
うち コロナワクチン 予防接種数	一本松	0	2,702	988	△ 1,714
	内海	0	1,494	515	△ 979
	福浦	0	0	0	0
	計	0	4,196	1,503	△ 2,693

※予診のみの患者を含む。

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度
コロナワクチン 予防接種を除い た外来患者数	一本松	8,057	7,950	7,645	△ 305
	内海	4,535	3,296	3,672	376
	福浦	629	571	618	47
	計	13,221	11,817	11,935	118

※外来患者数 — コロナワクチン予防接種数

※通常診療とワクチンの同時接種者がいるため推計値となる。

外来患者数は延べ 2,575 人 (16.1%) の減少となったが、令和3年度からコロナワクチン予防接種の数が件数を増加させており、その要因を除くと病院事業全体ではほぼ横ばいの状態となっている。

(3) 収益的収支の状況

(単位：千円、税抜、%)

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度		
		決算額	決算額	決算額	前年度増減	前年度比
収 益	医業収益	387,353	419,264	369,441	△ 49,823	88.1
	医業外収益	276,109	261,557	279,521	17,964	106.9
	特別利益	3,834	1,459	5,632	4,173	386.0
	計	667,296	682,280	654,594	△ 27,686	95.9
費 用	医業費用	628,780	636,996	632,615	△ 4,381	99.3
	医業外費用	19,797	21,556	20,174	△ 1,382	93.6
	特別損失	6,678	750	47	△ 703	6.3
	計	655,255	659,302	652,836	△ 6,466	99.0
差引額(純利益)		12,041	22,978	1,758	△ 21,220	7.7
未処分利益剰余金		30,092	41,070	20,828	△ 20,242	50.7

病院と診療所を合わせた収益的収入は 654,593,946 円、収益的支出は 652,835,542 円、差引額 1,758,404 円の純利益となっている。なお、一般会計繰入金(補助金)は 245,954,312 円で前年度の 228,115,430 円より 17,838,882 円増加している。

(4) 未収金の状況

(単位：円、税込)

区 分	令和5年3月31日現在未収金			
	内 訳	病 院	診 療 所	計
診療報酬等	社会保険支払基金	5,900,244	661,196	6,561,440
	国保連合会	45,780,233	6,070,689	51,850,922
	その他(自賠・労災等)	0	0	0
他団体収入 ・予防接種料 ・文書料等	その他(町・団体・施設等)	150,247	185,907	336,154
	令和4年度分	150,247	185,907	336,154
	令和3年度以前分	0	0	0
窓口一部負担金	窓口一部負担金	2,071,360	54,730	2,126,090
	令和4年度分	1,942,770	51,960	1,994,730
	令和3年度以前分	128,590	2,770	131,360
その他 医業外	その他医業外	509,484	2,670,502	3,179,986
	令和4年度分	431,064	2,670,312	3,101,376
	令和3年度以前分	78,420	190	78,610
合計		54,411,568	9,643,024	64,054,592

決算時点(令和5年3月31日)の未収金は、64,054,592 円だが、これは診療報酬(2月、3月分)が次年度(4月、5月)に入金であるため額が多額となっている。

現時点（令和5年5月31日）の未収金は2,021,120円で内訳は次のとおりである。

(単位：円、税込)

	病院	診療所	計
オンライン資格確認システム端末購入事業国庫補助金（内海診療所）	0	429,000	429,000
オンライン資格確認システム端末購入事業国庫補助金（魚神山出張所）	0	429,000	429,000
オンライン資格確認システム端末購入事業国庫補助金（家串出張所）	0	429,000	429,000
オンライン資格確認システム端末購入事業国庫補助金（福浦診療所）	0	429,000	429,000
個人窓口負担金（医業）	160,360	2,770	163,130
個人窓口負担金（医業外）	141,800	190	141,990
合計	302,160	1,718,960	2,021,120

個人窓口負担分については利用者の公平性を保つためにも、引き続き未収金の回収に努力されたい。

## (5) 借入金

### ① 企業債

企業債は、平成22年度末で返済完了となり、未償還残高は無い状況である。

### ② 一時借入金

一時借入金は無い。

## (6) 未払金

令和5年3月31日付けの未払金の額は、24,147,216円であるが、令和5年5月31日現在では未払消費税368,200円のみとなっている。

## (7) 資本的収支の状況

(単位：円、税込)

区 分	予算額	決算額	予算額に比べ決算額の増減又は不用額
資本的収入	3,619,000	3,619,000	0
病院補助金	1,903,000	1,903,000	0
診療所補助金	1,716,000	1,716,000	0
資本的支出	29,319,000	27,912,423	1,406,577
病院建設改良費	18,827,000	18,655,700	171,300
診療所建設改良費	10,492,000	9,256,723	1,235,277
差 引	△ 25,700,000	△ 24,293,423	—

資本的収入は国庫補助金の3,619,000円となっている。

資本的支出の内容は次のとおりであった。

病院の器械備品購入費としては、連動昇降式平行棒、血球分類計算器、ガステーブル、包丁まな板殺菌庫、ポータブルSP02モニタ、マットセンサー、薬品材料収納庫、体圧分散エアマット、繃帯交換車、オンライン資格確認システム端末（一本松病院）を購入し4,580,730円となっている。

病院のリース債務支払額においては本年度決算額14,074,970円であり、前年度決算額14,034,986円から39,984円増加している。これは電子カルテのリース料の償還元金の増加によるものである。

診療所の器械備品購入費では、オンライン資格確認システム端末（福浦出張診療所、内海診療所、魚神山出張所、家串出張所）を整備し2,327,380円となっている。

診療所の施設整備費としては空調設備等改修工事にかかる工事請負費6,380,000円、及び設計監理委託料440,000円となっている。

診療所のリース債務支払額においては、当年度に電子カルテをリース契約で導入し、その債務支払に伴い109,343円が発生している。

なお、資本的収支不足額24,293,423円については、過年度分損益勘定留保資金23,045,413円及び消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,248,010円で補てんしている。

## **(8) 財政状態**

### **① 資産**

資産合計は、固定資産と流動資産で915,519,671円となり、前年度937,474,344円から21,954,673円(2.3%)減少している。

#### **ア 固定資産**

固定資産合計は567,179,447円で、主なものは有形固定資産の土地109,528,796円、建物334,332,628円、構築物8,389,350円、器械備品71,333,551円、車両2,417,853円及びリース資産38,487,915円と無形固定資産2,689,354円であり、前年度607,142,918円に比較し39,963,471円(6.6%)の減少となっている。

#### **イ 流動資産**

流動資産合計は348,340,224円であり、内訳は現金預金277,485,943円、未収金63,612,592円及び貯蔵品7,241,689円となっている。

なお、未収金の回収不能見込額として貸倒引当金442,000円が計上されている。

### **② 負債**

負債合計は202,539,869円となり、前年度226,252,946円より23,713,077円

(10.5%)減少している。

ア 固定負債

固定負債はリース債務 11,124,352 円となっている。

イ 流動負債

流動負債合計は 67,837,385 円であり、内訳はリース債務 16,034,091 円、未払金 24,147,216 円、引当金 26,433,000 円及びその他流動負債 1,223,078 円である。

③ 資本

資本合計は、資本金と剰余金で 712,979,802 円であり、前年度 711,221,398 円より 1,758,404 円(0.2%)増加している。

ア 資本金

資本金合計は、651,287,875 円で、内訳は自己資本金の 651,287,875 円である。

イ 剰余金

剰余金合計は、61,691,927 円で、内訳は資本剰余金が 12,363,736 円(受贈財産評価額 12,363,736 円(内海診療所用地))で、利益剰余金は、49,328,191 円(減債積立金 5,000,000 円、利益積立金 7,500,000 円、建設改良積立金 16,000,000 円、当年度未処分利益剰余金 20,828,191 円)である。

## 総括意見

令和 4 年度の病院事業は、外来診療と医療型療養病床の 60 床により業務を行っている。また、福浦地区が無医地区状態になったことに伴い、平成 31 年 4 月に愛南町国保一本松病院福浦出張所を開設し週に 2 回の出張診療を実施している。また、内海診療所においては、家串・魚神山地域へそれぞれ週 1 回の出張診療を実施している。その他病院事業として、「南楽荘」「柏寿園」、小学校 3 校、中学校 1 校、保育所 2 か所の嘱託医を受託している。また、町の保健事業の予防接種、健康診断や健康相談なども積極的に行っている。このほかに県立南宇和病院の医師不足による医師の負担軽減を図るため、外来、日直、夜間当直、急患コーナーの診療支援を行っている。また、内海診療所では施設の老朽化等に伴い、令和 2 年 4 月から隣接する内海保健センター内で診療を開始している。

なお、病院事業の業務に従事している職員及び嘱託・会計年度任用職員数は令和 5 年 3 月 31 日現在で 73 人である。

病院では、連動昇降式平行棒、血球分類計算器などを購入し医療現場に必要な備品等の整備を行っている。またオンライン資格確認端末を 5 台(病院、内海診療所、福浦出張診療所、魚神山出張所、家串出張所)整備し、マイナンバーカード持参

により保険診療、投薬状況の閲覧ができる体制を整えた。

業務状況は、入院患者数が 15,508 人で前年度 18,066 人と比べ 2,558 人（14.2%）減少している。この減少要因としては退院患者が多い状態が続き、在院患者数を確保できなかったことが挙げられる。

外来患者数は 13,438 人で前年度 16,013 人と比べ 2,575 人（16.1%）の減少となっている。この減少要因としては令和 3 年度から開始されたコロナワクチン予防接種の接種数が、令和 3 年度 4,196 件から令和 4 年度 1,503 件へと減少したことが挙げられる。

経営指標の経常収支比率、修正医業収支比率からは、医業収益（入院収益、外来収益等）のみでは医業費用を充足できない状態が確認され、不足する財源は一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状態である。

病床利用率は本年度 70.8%で、昨年度の 82.5%に比べ 11.7%減少し、空き病床が増えていることが確認できる。また平均在院日数も本年度 89.9 日と昨年度 107.9 日から短くなっており、入院患者の入院期間の短期化が表れている。

病院運営を行う上で、空床の増加は経営に及ぼす影響が大きいことから、積極的な入院患者の受け入れを図り、病床利用率の向上及び収益の確保に努められたい。

今後においても、引き続き積極的に医師はもとより看護師等の医療スタッフの確保に努めるとともに、診療体制の充実と病院運営の安定化を図られたい。